



# 目次

目次	1
接種を受ける前にお読みください	2
1 予防接種とは?	2
2 定期予防接種は、いつ受ければいいのか?	2
3 定期予防接種(定期接種)の対象者・接種方法	2
4 予診票	2
5 予防接種を受ける前の注意点	3
6 予防接種を受けた後の注意点	3
7 定期予防接種による健康被害救済制度	4
8 釜石市以外で定期予防接種を受けたい方へ	4
9 造血幹細胞移植、骨髄移植等により 既に受けた定期予防 接種の免疫が喪失した方へ	5
10 任意予防接種(任意接種)	5
予防接種の標準的な受け方	6
ロタウイルス	7
B型肝炎	8
小児用肺炎球菌	9
五種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ)	10
BCG	11
麻しん・風しん(MR)	12
日本脳炎	12
水痘(水ぼうそう)	13
季節性インフルエンザ【任意接種】	14
おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)【任意接種】	14



# 接種を受ける前にお読みください

## 1 予防接種とは？

予防接種は、病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くしたりするために、感染症の予防のためのワクチンを接種することです。

感染症にかかりにくくしたり、感染症のまん延を防いだりする目的で行うものとして、**定期予防接種**があります。定期予防接種の中には、乳幼児のうちを受けることが重要なものがあります。

子どもの健康のためにも、接種時期を遅らせずに忘れずに予防接種を受けましょう。

### 用語【感染症】

ウイルスや細菌などが体内に入り、増加することで起こる病気のこと。ウイルスなどの種類によって、発熱、せき、頭痛、嘔吐などさまざまな症状が現れます。

## 2 定期予防接種は、いつ受ければいいのか？

定期予防接種は、病気ごとに定められた接種期間がありますので、適切な期間内に忘れないように接種することが大切です。

赤ちゃんは生まれてしばらくのうちは母親からもらった免疫で守られていますが、その免疫は次第に減っていくため、感染症にかかりやすくなります。赤ちゃんの予防接種を遅らせると、免疫がつくのが遅れ、重い感染症になる危険性が高まります。

小さなお子さんがいるご家庭では、0歳から接種を始めるワクチンも複数ありますので、予防接種の時期を確認し、時期を逃さず、予防接種を受けさせるようにしてください。

## 3 定期予防接種（定期接種）の対象者・接種方法

- (1) 接種対象者 接種日時点で、次の二つの条件を満たす人
- ① 釜石市に住民登録のある人
  - ② 各予防接種の対象年齢の人
- ※住民登録を異動する場合はご注意ください。  
後日、接種日時点で住民登録がないこと判明した際は全額自己負担となります。  
※対象年齢以外で接種した場合、原則全額自己負担です。
- (2) 接種場所
- ① 個別接種の場合は市内の予防接種実施医療機関
  - ② 集団接種の場合は釜石市保健福祉センター
- (3) 接種費用 無料
- (4) 必要なもの
- ① 各ワクチンの予診票
  - ② 母子健康手帳 ③ 健康保険証 ④ 身分証明書

## 4 予診票

予診票は、予防接種を受ける子どもの情報を、接種する医師に伝える大切な情報源です。出生時の様子や病歴、予防接種の接種状況など保護者が責任をもって記入しましょう。

BCG、麻しん風しん、水痘、日本脳炎については、お子さんの接種対象月に市から案内とともに郵送します。その他の定期接種、任意接種の予診票は医療機関に備えてありますので、接種の予約の際などに入手してください。

## 5 予防接種を受ける前の注意点

予防接種は体調の良いときに受けましょう。

また、日頃から、体質や体調など健康状態によく気を配り、何か気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけの医師や市担当課に相談してください。

### 次のような場合は予防接種を受けられません。

- ① 熱がある場合（接種会場の検温で 37.5℃以上の熱があるとき）
- ② 重い急性疾患にかかっている場合
- ③ 予防接種でアナフィラキシー（※）を起こしたことがある場合には、アナフィラキシーを起こした予防接種と同じ予防接種は受けられません
- ④ 下記の病気が治癒してから2週間～1か月経過していない。もしくは潜伏期間と考えられる場合は、医師の判断により接種を見合わせる場合があります。

[例] ○手足口病 ○伝染性紅斑（りんご病） ○水痘（水ぼうそう） ○麻疹（はしか）  
○風しん（三日ばしか） ○流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）など

#### 用語【アナフィラキシー】

通常、接種後 30 分以内に起こる強いアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身の発疹、吐き気、嘔吐、呼吸困難などの症状に続き、ショック状態になるような激しい全身反応が出現することがあります。

### 次のようなときはかかりつけ医に相談を

- ① 風邪のひきはじめや、治療中の病気がある、1か月以内に入院したなど、健康状態に変わりがある人
- ② 心臓病や腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けている人
- ③ 過去の予防接種で、2 日以内に発熱や発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人
- ④ 過去にひきつけ（けいれん）を起こしたことがある人
- ⑤ 過去に免疫不全の診断を受けたことがある人、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑥ 卵などの食品、抗生物質、安定剤など薬品にアレルギーがあるといわれたことのある人
- ⑦ 医師の診察、投薬を受けている方は、接種可能か確認されることをお勧めします

## 6 予防接種を受けた後の注意点

### 予防接種を受けた当日は、次のことに気をつけましょう

- ① 接種後30分くらいは、接種した医療機関の中で様子を見るか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- ② 帰宅後も、激しく体を動かすことは避けさせましょう。
- ③ こども園や幼稚園などはお休みして、自宅で静かに過ごしましょう。
- ④ 入浴を含め、いつもどおりの生活ができます。接種部位は強くこすらないように、清潔に保ちましょう。

## もしも、副反応が起こったときは？

健康な子どもや大人では、ワクチンを接種してもほとんど体の変化は見られませんが、人によっては、接種した箇所が赤くなったり、腫れたりするなどの変化が現れることがあります。ワクチン接種によって体に現れる変化や症状を副反応といいます。

発熱や接種箇所の赤みや腫れ、しこり、発疹などで軽い症状であれば、数日で自然に消えますので、あまり心配はいりません。かいたり触ったりしないようにしてください。

ただし、ひどい腫れや高熱、ひきつけなどの重い症状が現れた場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

また、どのような予防接種でもまれに、アナフィキラーシーや血小板減少性紫斑病（※）などの重い副反応が生じることがあると言われています。予防接種を受けた後に、気になる症状や体調の変化が現れたときには、すぐに医師に相談してください。

（※）血小板の数が少なくなることで出血しやすくなり、皮膚の下で出血して青あざができたり、歯ぐきから出血したりする症状

### 用語【副反応】

予防接種を受けると免疫ができる効果の他に、まれに熱が出たり、機嫌が悪くなったり、腫れたり、アレルギー反応などの症状が現れる場合があります。このような好ましくない変化を副反応といいます。予防接種を受けた後に、心配な症状が現れた場合は、早めに医療機関に相談しましょう。

## 7 定期予防接種による健康被害救済制度

(1) 定期予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定される必要があります。

(2) 給付の内容は、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料となっており、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

※給付申請の必要が生じた場合には、予防接種を受けたときに住民登録している市区町村へご相談ください。

## 8 釜石市以外で定期予防接種を受けたい方へ

通常、予防接種（定期予防接種）は、住民登録している市区町村で受けることになりませんが、里帰り出産やかかりつけ医が市外などの理由で、釜石市以外で接種を受けたい場合は「予防接種実施依頼書」を医療機関に提出することで、市外で接種することができます。

- (1) 対象者
  - ①市外の病院に入院中の場合
  - ②かかりつけ医が市外で主治医の管理下で接種が必要な場合
  - ③里帰り出産などで長期間市外にいる場合
- (2) 接種費用
  - 他市区町村で釜石市民が定期接種を受ける場合は、釜石市が接種費用を負担します。ただし、釜石市の接種費用より高額の場合は、差額は自己負担となります。

## 9 造血幹細胞移植、骨髄移植等により 既に受けた定期予防接種の免疫が喪失した方へ

造血幹細胞移植等により、既に受けた定期予防接種の免疫が喪失した方への、任意接種の再接種助成制度があります。

本人がこれまでに接種したことのある予防接種のうちから、医師が必要と認めたものを市の助成で受けることができます。対象の予防接種や接種時期など、詳しくは釜石市HPをご覧ください。

## 10 任意予防接種（任意接種）

任意予防接種は、希望者が各自で受ける予防接種です。予防接種法に基づき、市区町村が実施する定期予防接種とは異なり、医療機関ごとに接種費用も異なります。

また、定期予防接種として行われているワクチンであっても、接種する際に予防接種法上規定された接種年齢、接種時期、接種回数などからはずれた場合は、任意予防接種として行われますので、費用や健康被害の救済の内容が異なるため注意が必要です。

なお、特定の予防接種費用の助成を行う場合は、市広報紙や市HPでお知らせします。

### 任意予防接種による健康被害救済制度

任意予防接種によって健康被害が起こったときは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法による「医薬品副作用被害救済制度」があります。

定期予防接種による健康被害救済度とは給付の内容が異なりますので、詳しくは、同機構(PMDA)のホームページをご確認ください。



#### 用語【接種間隔】

予防接種を安全、効果的に接種するために決められている間隔です。ワクチンのタイプ（生ワクチン、不活化ワクチン）や種類によって間隔が異なりますので、医療機関が決めるスケジュールを守りましょう。

#### 用語【同時接種】

医師が必要と認めた場合は、異なる種類のワクチンを同時に接種できます。接種部位の局所反応が出た場合に重ならないように、上腕や大腿など別の場所に接種します。

# 釜石市 予防接種スケジュール

幼稚園や保育園に入る前(集団生活が始まる前)にきちんと免疫をつけて、お子さんを感染症から守りましょう。

2025年4月現在

ワクチン名・種類	1 歳	11 か月	10 か月	9 か月	8 か月	7 か月	6 か月	5 か月	4 か月	3 か月	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	
ロタリックス (1価:2回)																	
ロタウイルス																	
小児用肺炎球菌 (4回)																	
五種混合 (4回)																	
B型肝炎 (3回)																	
BCG (1回)																	
麻しん風しん (2回)																	
水痘 (2回)																	
日本脳炎 (4回)																	
おたふくかぜ																	
インフルエンザ																	

## 図・用語の説明

- 不活化ワクチン**  
細菌やウイルスを不活化し病原性を無くしたもの
- 生ワクチン**  
注射生ワクチンを接種した後は、4週間ほかの種類注射生ワクチンを接種できません。(注射マークのワクチン)

- おすすめの接種時期
- 定期接種対象年齢【接種費用】期間内は無料です
- 任意接種対象年齢【接種費用】自己負担があります

- 注射マーク ※その年齢で接種しましょう
- 飲み薬マーク

第2期  
小学校  
入学前

釜石市では、1歳児に接種費用の一部を助成しています。接種を希望される方は市内医療機関にご相談ください。

毎年10月から11月頃に接種しましょう。釜石市では高校生まで、接種費用の一部を助成しています。

第1期:2歳の誕生日前日まで接種できます

3歳の誕生日前日まで接種できます

対象月に案内を送ります

2か月から接種します。他の2か月開始のワクチンと同時接種が可能

2か月から接種します。他の2か月開始のワクチンと同時接種が可能

2か月から開始します。他の2か月開始のワクチンと同時接種が可能

2か月から開始します。他の2か月開始のワクチンと同時接種が可能

2か月から開始します。他の2か月開始のワクチンと同時接種が可能

釜石市では6か月健診で接種します

対象月に案内を送ります

対象月に案内を送ります

# ロタウイルス

## 1 対象年齢

ロタリックス(1価)： 生後6週～24週に至るまで

ロタテック(5価)： 生後6週～32週に至るまで

※ 生後15週以降の1回目の接種は安全性が確立されていないので、1回目の接種は必ず生後14週6日後までに受けてください。

## 2 接種回数

ロタリックス(1価)： 2回(27日以上の間隔をおいて2回経口接種)

ロタテック(5価)： 3回(27日以上の間隔をおいて3回経口接種)

※ どちらか一方のワクチンを選択し、1回目のワクチンと同じワクチンで2回目以降も受けてください。

## 3 国が示している標準的な接種スケジュール

1回目： 生後2か月～生後14週6日後までに接種

2回目： 1回目から27日以上の間隔をおいて接種

3回目： ロタテックの場合のみ、2回目から27日以上の間隔をおいて接種

## 4 接種を受ける際の注意

腸重積症(※)になったことのある人や、腸重積症の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管障害(メッケル憩室等)のある人はロタウイルス予防接種を受けられません。

授乳は、接種を受ける1～2時間前までに済ませましょう。少し空腹感のある方がワクチンの接種を受けやすいと考えられます。授乳後は嘔吐する可能性があるため、接種後の授乳は30分程度あけることをお勧めします。

接種後に吐き出してしまっても、口の中に少量でも飲み込んでいれば一定の効果があることや、複数回の接種での効果が期待できることから、原則、接種の受け直しは不要です。

## 5 接種後の副反応・注意点

最も多くみられるのは、ぐずり、下痢、咳・鼻水です。その他、発熱、食欲不振、嘔吐などがみられます。

(※)腸重積症と思われる症状(突然激しく泣く)(機嫌が悪かったり、不機嫌を繰り返す)(嘔吐を繰り返す)(ぐったりして顔色が悪くなる)(血便が出る)が見られたときは速やかに医師の診断を受けてください。接種した医療機関とは別の医療機関を受診する場合は、このワクチンを接種したことを伝えてください。なお、ロタウイルスワクチン接種後1週間は腸重積症を発症するリスクが増加する可能性がありますので、接種回数に関わらずお子さんの症状を注意して見てください。

ワクチン接種後1週間程度は、便の中にウイルスが含まれることがあります。オムツ交換の後などお子さんと接触したときは手洗いを徹底しましょう。

## 6 ロタウイルス感染症 (Rotavirus)

ロタウイルス感染症は、年齢にかかわらず何度も発症しますが、症状は初感染時が最も重症です。その後、感染を繰り返すにつれて軽症化していきます。

主な症状は急性胃腸炎（ロタウイルス胃腸炎）で、脱水、けいれん、肝機能異常、腎不全、まれに急性脳症を合併します。

## B型肝炎

### 1 対象年齢

#### 1歳未満

母子感染予防のために、生まれた直後にB型肝炎ワクチンの接種を受けた人は、定期予防接種の対象外です。

### 2 接種回数

#### 3回

2回目の接種は、1回目から27日以上の間隔をおいて接種

3回目の接種は、1回目から139日以上の間隔をおいて接種

### 3 国が示している標準的な接種スケジュール

1～2回目：生後2か月～3か月の間に27日以上の間隔で2回接種

3回目：生後7か月～9か月未満の間に接種（1回目から139日以上の間隔で1回接種）

### 4 接種後の副反応

倦怠感、頭痛、局所の腫脹、発赤、疼痛などで3～4日で消失します。新生児、乳児についても問題はなく、一般的に重大なものは認められません。

### 5 B型肝炎 (Hepatitis B)

乳幼児期に感染するとウイルスのキャリア（持続感染：ウイルスを体内に保有した状態）になる率が高く、将来、慢性肝炎になることがあり、そのうち一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。

#### 用語【発赤（ほっせき）】

皮膚が炎症などで赤くなること。

#### 用語【経口感染】

ウイルスや細菌に汚染された食べ物を、生や十分に加熱しないで食べた場合や、感染した人の手指等を介して調理された食品などを飲食した場合に感染します。（ロタウイルス、ノロウイルス）



# 小児用肺炎球菌

## 1 対象年齢

生後2か月～5歳未満（5歳の誕生日の前日まで）

## 2 接種回数

接種開始時の年齢により異なります。

## 3 国が示している標準的な接種スケジュール

初回接種：生後2か月～7か月未満の間に接種を開始し、1歳未満までに、27日以上の間隔をおいて3回接種

追加接種：初回接種終了後、60日以上の間隔をおいて、1歳～1歳3か月未満の間に1回接種

## 4 接種方法

パターン	接種開始年齢	接種間隔・接種回数	
1	生後2か月～7か月未満	初回	標準的には1歳未満までに27日以上の間隔をおいて、3回接種 ただし、2回目、3回目の接種は2歳未満までに行うこととし、2歳の誕生日を迎えた場合は行わない（追加接種は可能） また、2回目の接種を1歳の誕生日以降に行う場合、3回目の接種は行わない（追加接種は可能）
		追加	初回接種終了後、60日以上の間隔をおいて、1歳に至った日以降に1回接種
2	生後7か月～1歳未満	初回	標準的には1歳未満までに27日以上の間隔をおいて2回接種 ただし、2回目の接種は2歳未満までに行うこととし、2歳の誕生日を迎えた場合は行わない（追加接種は可能）
		追加	初回接種終了後、60日以上の間隔をおいて、1歳に至った日以降に1回接種
3	1歳～2歳未満	60日以上の間隔をおいて、2回接種	
4	2歳～5歳未満	1回接種	

## 5 接種後の副反応

国内臨床試験でみられるのは、注射部位の症状（赤み、硬結、腫れ、痛み）、発熱などです。

## 6 小児の肺炎球菌感染症（Pneumococcus）

肺炎球菌は、乳幼児の上気道に感染後、ときに肺炎や中耳炎、敗血症、髄膜炎等になったり、血液中に菌が侵入するなどして重篤な症状を起こすことがあります。

### 用語【硬結（こうけつ）】

一般に柔らかい組織が、炎症やうっ血、充血などで硬くなること。

# 五種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ）

## 1 対象年齢

生後2か月～7歳6か月未満

## 2 接種回数

初回接種：20日以上の間隔をおいて3回接種

追加接種：初回接種終了後、6か月以上の間隔をおいて1回接種

## 3 国が示している標準的な接種スケジュール

初回接種：生後2か月～1歳未満の間に、20日～56日の間隔をおいて3回接種

追加接種：初回接種終了後、1年～1年6か月の間隔をおいて1回接種

## 4 接種後の副反応

接種部位の副反応として、紅斑、硬結、腫脹などがあります。接種部位以外の副反応は発熱、気分変化、下痢、鼻水、せき、発疹、食欲減退、咽頭発赤、嘔吐などがあります。

## ジフテリア (Diphtheria)

ジフテリア菌により発生する疾病です。その発生は最後に報告されたのが、1999年であり稀になりましたが、かつては年間8万人以上の患者が発生し、そのうち10%程度が亡くなっていた重要な病気です。

主に気道の分泌物によってうつり、喉などに感染して毒素を放出します。この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、眼球や横隔膜（呼吸に必要な筋肉）などの麻痺、心不全等を来たして、重篤になる場合や亡くなってしまう場合があります。

## 百日せき (Pertussis)

百日咳菌の飛沫感染で起こり、連続した咳が長く続く。咳発作のあとに急に息を吸うので笛を吹くような音を伴う呼吸困難、チアノーゼ、けいれん等を起こすことがある。乳児では無呼吸状態や肺炎、脳症などの重い合併症になることがあります。

## 破傷風 (Tetanus)

破傷風菌は土壌の中に広く分布し、外傷、火傷などから体内に侵入する。菌が出す毒素により神経麻痺、筋肉の激しいけいれんや呼吸困難などを起こします。顔の筋肉が硬直し、引きつったような表情になり、口が開かなくなることが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸ができなくなります。

## ポリオ (急性灰白髄炎) (Polio)

ポリオ (急性灰白髄炎) は脊髄性小児麻痺とも呼ばれ、ポリオウイルスによって発生する疾病です。名前のおり子ども (特に5歳以下) がかかることが多く、麻痺などを起こすことのある病気です。主に感染した人の便を介してうつり、手足の筋肉や呼吸する筋肉等に作用して麻痺を生じることがあります。永続的な後遺症を残すことがあり、特に成人では亡くなる確率も高いものとなっています。

## ヒブ(インフルエンザ菌b型)(Hib:Haemophilus influenza type b)

Hib 感染症は、ヘモフィルスインフルエンザ菌 b 型という細菌によって発生する病気で、そのほとんどが 5 歳未満で発生し、特に乳幼児で発生に注意が必要です。

主に気道の分泌物により感染を起こし、症状がないまま菌を保有(保菌)して日常生活を送っている子どもも多くいます。この菌が何らかのきっかけで進展すると、肺炎、敗血症、髄膜炎、化膿性の関節炎等の重篤な疾患を引き起こすことがあります、これらを起こした方のうち 3~6%が亡くなってしまいますといわれています。また、特に髄膜炎の場合は、生存した子どもの 20%に難聴などの後遺症を残すといわれています。

### 用語【敗血症】

感染症によって臓器障害が生じている病態のことで、心臓、肺、腎臓など生命に関わる臓器の機能が低下していること。

## BCG

### 1 対象年齢

1歳未満

### 2 接種回数

1回

### 3 国が示している標準的な接種スケジュール

生後5か月~8か月未満の間に1回接種

### 4 接種後の副反応

1%以下の割合で、接種した後に局所の潰瘍やリンパ節の腫脹がみられると報告されています。また、発生頻度は不明ですが、接種後に「アナフィラキシー」、「全身播種性 BCG 感染症」、「骨炎・骨髄炎」、「皮膚結核様病変」等が発生したという報告があります。

お子さんが BCG ワクチン接種前に家族など身近な人からうつるなどして結核菌に感染している場合は、接種後 10 日以内にコッホ現象が起こることがあります。通常の反応における接種局所の反応の発現時間(おおむね 10 日前後)と異なり、接種後数日間の早い段階で発現します。コッホ現象と思われる反応がお子さんにみられた場合は、速やかに市区町村に相談あるいは、医療機関を受診してください。

### 用語【コッホ現象】

接種局所の発赤・腫脹(はれ)及び接種局所の化膿が現れ、通常 2 週間から 4 週間後に発赤や腫脹がおさまり、癬痕化(あとが残り)治癒する一連の反応

### 5 結核(Tuberculosis)

結核は、結核菌によって発生するわが国の主要な感染症の一つです。

結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳、痰、発熱、呼吸困難等、風邪のような症状を呈することが多いですが、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります。特に、小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要です。

# 麻しん・風しん（MR）

## 1 対象年齢

第1期：1歳～2歳未満（1歳の誕生日を迎えたら、早めに接種を受けましょう）

第2期：5歳以上7歳未満で、小学校入学前の1年間

## 2 接種回数

2回

## 3 麻しん（はしか）（Measles）

麻しんウイルスは感染力が極めて強く、くしゃみやせき、接触などにより簡単に感染します。感染すると、高熱やせき、発疹等のほか、免疫力の低下による肺炎や脳炎等の合併症を招くこともある命にかかわる病気です。

## 4 風しん（三日はしか）（Rubella）

風しんウイルスは感染力が極めて強く、成人が発症した場合、高熱や発疹が長く続いたり、小児より重症化することがあります。まれに脳炎などの合併症を起こすことがあります。また、風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの女性が風しんウイルスに感染すると、眼や心臓、耳等に障害をもつ（先天性風しん症候群）子どもが出生することがあります。（妊娠1か月でかかった場合50%以上、妊娠2か月の場合は35%などとされています）。

麻しん、風しんそのものに有効な治療法はなく、予防接種が唯一有効な対策となります。

# 日本脳炎

## 1 対象年齢

生後6か月～7歳6か月未満

## 2 接種回数

初回接種：6日以上の間隔をおいて2回接種

追加接種：初回接種終了後、6か月以上の間隔をおいて1回接種

## 3 国が示している標準的な接種スケジュール

初回接種：3歳～4歳未満の間に、6日～28日の間隔をおいて2回接種

追加接種：初回接種終了後、おおむね1年以内に1回接種

第2期：9歳～10歳までに期間に1回接種

## 4 日本脳炎（Japanese encephalitis）

日本脳炎ウイルスにより発生する疾病で、蚊を介して感染します。以前は子どもや高齢者に多くみられた病気です。突然の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、意識障害や麻痺等の神経系の障害を引き起こす病気、後遺症を残すことや死に至ることもあります。

# 水痘（水ぼうそう）

## 1 対象年齢

1歳～3歳未満

すでに水痘にかかったことがある人は、定期予防接種の対象外です。

## 2 接種回数

2回

## 3 国が示している標準的な接種スケジュール

1回目：1歳～1歳3か月未満の間に1回接種

2回目：1回目終了後、6か月～12か月の間隔をおいて1回接種

## 4 水痘 (Varicella)

水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる発疹性の病気です。空気感染、飛沫感染、接種感染により広がり、潜伏期間は感染から2週間程度です。典型的な症例では、発疹は紅斑から始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するとされています。

水痘は主に小児の病気で、9歳以下での発症が90%以上を占めると言われています。小児における重症化は、熱性痙攣、肺炎、気管支炎等の合併症によるものです。

### 用語【空気感染】

ウイルスや細菌が空気中に飛び出し、約1mを超えて人に感染させること。（麻疹、水痘、結核など）

### 用語【水疱（すいほう）】

皮膚が盛り上がり中に液体がたまった状態の皮膚症状。

### 用語【飛沫感染】

ウイルスや細菌が咳やくしゃみなどにより、唾液や気道分泌物と一緒に空気中に飛び出し、約1m～2mの範囲で人に感染させること。（百日せき、風しん、インフルエンザ、おたふくかぜ）

### 用語【膿疱（のうほう）】

皮膚に膿がたまって盛り上がった状態の皮膚疾患。表皮下に白や黄色みがかかった膿がたまり、目視できる程度に貯留します。

### 用語【接触感染】

皮膚や粘膜の直接的な接触や、手すりやタオルなどの物体の表面を介した間接的な接触で病原体が皮膚に付着し感染します。



## 季節性インフルエンザ【任意接種】

### 1 対象年齢

生後6か月から接種可能

### 2 接種回数

13歳未満は2～4週間の間隔で2回接種

13歳以上は1回

※1回目の接種時に12歳、2回目の接種時に13歳になっていた場合は12歳と考えて2回接種して差し支えありません。

### 3 接種費用の助成

釜石市では、生後6か月から高校3年生相当までを対象に接種費用の一部を助成しています。接種費用は医療機関ごとに異なります。

### 4 インフルエンザ (Influenza)

A型またはB型のインフルエンザウイルスに感染してから1～3日間ほどの潜伏期間の後に、発熱（通常38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などが現れます。年齢を問わず呼吸器、循環器、腎臓に慢性疾患を持つ患者や、糖尿病、免疫機能が低下している患者は、原疾患の悪化を起こしやすくなります。小児では中耳炎、熱性けいれん、気管支喘息、急性脳症を起こすこともあります。

## おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）【任意接種】

### 1 対象年齢

1歳以降

### 2 接種回数

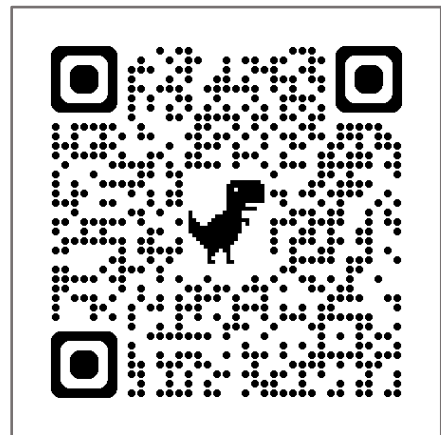
2回接種が推奨されています（2回目は小学校1年生児）

### 3 接種費用の助成

釜石市では、1歳児を対象に接種費用の一部を助成しています。接種費用は医療機関ごとに異なります。

### 4 おたふくかぜ (Mumps)

ムンプスウイルスによる全身感染症です。潜伏期間は2～3週間で、耳下腺腫れて痛み、合併症として髄膜炎、髄膜性脳炎、難聴を起こすことがあります。年長児や成人が罹患すると合併症の頻度が高くなります。



釜石市  
(予防接種をうけましょう)

釜石市保健福祉部 健康推進課

〒026-0025 岩手県釜石市大渡町3丁目 15 番 26 号

TEL:0193-22-0179 FAX:0193-22-6375